

e-dream-s 通信

No.42 発行：2004年2月8日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

- 1. イケてるイー・ドリームズ 辻荘一 p2
- 2. ホテル生活：快適の条件 井川好二 p3
- 3. CSO 中川房代 p6
- 4. ECAP 後、その広がり 山田昌子 p8

オンデマンド日本語教育用写真 より <http://www.aglance.org>



イケてるイー・ドリームズ

辻 莊一

自己紹介のときに、高校で英語を教えていますと言えば、それ以上の説明は不要だが、e-dream-s という NPO 法人の理事をしています、と言うと説明がなかなか大変だ。

大阪府では去年から「評価育成システム」が試験実施されていて「自己申告表」を書いて校長に提出しなければならないことになっている。自己申告表にはその年度の目標・実施計画・進捗状況・自己評価・課題を記入する。結構面倒な作業だし、この制度の実施や実施方法の是非について様々な意見があるようだが、ただ一つ、ちゃんと書けば自分のためになるということのはっきりしている。私自身毎年度おぼろげながらに目標はあるのだが、うやむやになることが多い。しかし、自己申告表のような決まった形式で読み手を意識して書くということは、自分の考えをはっきりさせるという意味でも、毎年の自分の仕事ぶりを振り返る意味でも、自分のためになる。

一方、これまで自己申告表がなくとも仕事に不都合がなかったのも事実だ。学校と言う制度の中で自分のやることはほぼ決まっている。それを毎年繰り返していれば、とりあえず問題はない。高校という社会的に認められた確固とした組織での教師としての仕事に説明は不要だ。高校って何をやってるんですか？とか、英語を教えるってどういうことですか？とか聞かれることはない。

ところが NPO の場合はそうはいかない。NPO ってなんですか？e-dream-s って何をやってるんですか？ひとことで説明するとどうなりますか？ECAP の特徴は何でしょうか？などという質問が必ずでる。でないまでもその質問が相手の頭に浮かぶのが分かる。そしてその質問に手短かに要領よく答えるのはなかなか難しい。

例えば、ECAP に関する記事のための取材で日経新聞の A 記者からも同様の質問を受けたし、英語教育 4 月号掲載予定の「教師のための NPO の勧め」というコラムを書くときも、自分は何をしているのか、何のためにしているのかももう一度自分に問いかけなければならなかった。

決して望ましいことではないが、教師に限らず多くの職業では、その仕事の目的は何か、なぜ自分はその仕事をしているのかといった質問に答えられずとも、惰性でできる。しかし自分の意志で参加する NPO で活動するときは、目的はなにか、なぜ自分は参加しているのかという質問に対するはっきりした答えが自分の中になければ、少なくとも長く続けて行くことはできないのである。

しかし考えてみれば、質問され、答えるのが難しいというのは喜ばしいことでもある。質問が出るのは相手が興味を持っているからだし、相手に分かってもらうように答えるのが簡単でないのは e-dream-s がやろうとしていることが、今までになかった新しいことだからだ。e-dream-s って結構イケてるということだ。

さて e-dream-s が結構イケてることはちゃんと伝わったろうか？それは今週掲載予定の日経新聞の記事と英語教育 4 月号を見て、ご判断を。

e-dream-s.come.true

ホテル生活：快適の条件

井川 好二

出張や合宿の多い生活をしている。家の外で泊まることの多い暮らしが、このところ何年も続いていて、ホテルなどに泊まる日にちを数えてみれば、一年で一か月以上にもなる。仕事の都合と云うこともあるが、個人の好みと云うことも大いにある。旅好きである。ホテル好きである。

例えば、去年（2003 年）のことを思い出してみる。このところ海外には、年 3 回のペースで出かけていて、その都度、一週間位。去年は、春にアメリカ、夏に韓国、冬にベトナムの合計 3 週間。

仕事で東京や福岡に出張する事情があって、年間 5 回づつとしても、10 泊。去年は、福岡

で週一回授業を受け持っていたため、14回分が追加。去年は仕事関係で3週間。その他、アクロスの合宿や家族旅行などで、一週間程度。合計すれば、去年は実に7週間も、ホテルで暮らしたことになる。

そんなホテル生活の中で、ホテルはこうあって欲しいと思う条件をあげてみる。むろん、ホテルも商売なので、値段によって左右される要素も大きいですが、同じ値段ならこうあって欲しいと云うつもりである。ご参考。

(1) 部屋の窓からの眺めが良いホテル：

観光にしるビジネスにしる、泊まったホテルの部屋からの眺めが、心地よいホテルが良い。観光はともかくビジネス出張なら、ホテルは寝るだけ。朝もそそくさと出ていくにしても、何気なく窓から眺めた景色が心地よいと、落ち着く気持ちがして、仕事も上手くいくというものである。

部屋からの景色は、値段と相当関係があることも事実で、高層階の部屋は景色も良いが、料金もやや高い。また、駅のすぐ側にあると云うのも、窓からの景色は殺風景この上無い場合が多いもの。多少の便利さを犠牲にしたり、少し余分に出費する覚悟もいる。しかし、この位の犠牲は、自分への投資だと思えば、すぐに元がとれる。

多分に個人的な好みになるが、今までに泊まったところで窓からの景色が気に入ったホテルをあげれば、釜山の海雲台にあるウェスティン。白砂のビーチがある海の景色が秀逸。ニューヨーク、マンハッタンのヒルトン NY。高層階の角部屋だったので、摩天楼が手に取るように眺められ、空中で寝起きしているような不思議な浮揚感があった。東京の早稲田にあるリーガロイヤルホテルも、窓からの景色が良い。公園になっている早稲田大学構内の芝生の眺めが、心地よい。

(2) 朝ご飯が美味しいホテル：

夜は街に繰り出して、わがままいっぱいあれこれと食べたり飲んだりすること多いので、泊まったホテルのご厄介になることはあまりないが、朝食は泊まったホテルでとることが多い。

日本のホテルなら、いわゆる和洋折衷のバイキング形式よりも、一人一人テーブルまで運んでくれる「和朝食」が好みである。二日酔いの頭と身体に、日本茶と味噌汁が心地よい。福岡の天神から少し歩いたところにある小さなホテル、タカクラ・ホテルの和朝食は、美味し

い。地元の食材を適宜アレンジしてあるのが、旅人には嬉しいものである。

バイキング形式でも、美味しいところは美味しい。値段も考えれば、当たり前と云えば当たり前だが、大阪のリッツ・カールトンの朝食バイキングは、質の高い料理を出す。これは、ソウルのリッツでも同じ。ベトナムのハノイにあるソフィテル・メトロポールの朝食バイキングも、フランス式とベトナム式のミックスが、どちらもちゃんとしているのが嬉しかった。

しかし、高いホテルに泊まれば良いのかと云うとそうではなくて、そのホテルが客に出す朝食をどう考えているか大切で、格式あるホテルでも、料理の質が悪い場合や人手不足でサービスが行き届かない場合も多々あることも事実である。

(3) 従業員が笑顔で対応してくれるホテル：

大阪 YMCA 会館の旧ビル時代、YMCA ホテルを営業していた。その小さなホテルのロビーに、“Home away from home¹” と云うプレートが掲げられていた。「自宅同様に寛げるホテル」と云う意味。

その今は廃業した「旧大阪 YMCA ホテル」が、自宅同様に寛げるホテルだったかどうか、泊まったことがないので、知る由もないが、そうなるための条件はハッキリしていて、従業員の態度である。従業員が笑顔で対応してくれるホテルが、寛げるホテルである。

むろん、窓の景色も良くて、朝食も美味いにこしたことはないが、従業員の態度が全てに関係している。北海道の苫小牧の湿原にあるホテル・ニドムは、広大な敷地に点在するログ・キャビンに宿泊する形式のホテルだが、フロントやレストランの従業員が、こちらのわがままに親切に対応してくれるのが嬉しかった。今年のアクロスの合宿で泊まった神戸ベイシェラトン&タワーズも、笑顔での対応が際立っていたように思う。尤も、マネージャーが教え子だったと云う事情が、影響しているのは事実。

あえて云えば、泊まる側の態度と云うこともある。向こうは商売とは云いながら、こっこの態度が酷ければ、従業員もそれなりの態度を見せるのかも知れない。リッツ・カールトンのモットーは、“We are ladies and gentlemen serving ladies and gentlemen.” と云うのである。我々は、紳士淑女に奉仕する紳士淑女なのだ、と云う自覚が大切。泊まる側の紳士淑女としての自覚と云うこともある。(Saturday, February 7, 2004)

¹ (a) home (away) from home 《自宅同様に》くつろげる所、憩いの場.[リーダーズ+プラスV2]

CSO

中川 房代

1月末に、大阪市にある「NPO 大学院講座²」で「事業プラン発表会」が行われた。事業プランの発表を行うことは、「講座」の受講生1年目コースの修了要件の1つになっている。

NPOは最近の流行ということもあって、全国でも多くの大学や大学院がNPOに関する学科・コースを設置³したり、地域のNPO中間支援組織が連続講座を開設したりしている。私の通う「NPO 大学院講座」は、大阪NPOセンターが企画し、株式会社組織を作って運営している学校である。株式会社による学校の開設・運営は、まだ特区⁴の段階で実験的に行われようとはしているだけで正式に文部科学省から認可されていないため、「大学院」を名乗ることはできない。因みに、私は2年目コースに在籍しているため、今回は聴衆の一人としての参加である。

5月から始まった9ヶ月間の授業の総まとめとして、自分が立案・作成した事業プランを8分間で発表するというものである。それまでの授業の中で、事業プランとは何か？何をポイントに作成すればいいのか？という概略を、ベンチャービジネスの事業プラン担当の先生の講義で学び、希望者には個別指導も行っていると聞いていた。

10人の発表があった。自分の所属するNPOの今後の方針、今後立ち上げたいNPO、受講生がそれぞれの得意分野を持ち寄ったの共同プランなど、身近な取り組みから市の政策を変える事業まで多彩で、どの発表も自分がなぜその事業をしたいのかの思いが詰まっていた。音楽の仕事をしている人からは地域の文化ホールの活性化を、またふるさとへのこだわりから自分の住む街の魅力作りを、中年男性からは職場を離れての自分の“地

² 「NPO 大学院講座」 <http://www.npogs.net/> e-dream-s の紹介も掲載されている。

³ 例えば、大阪大学大学院国際公共政策研究科、京都橘女子大学大学院文化政策学研究科、大阪市立大学大学院創造都市研究科、九州大学人間環境学研究院、龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース、立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科などがある。

⁴ 現在は、東京都千代田区「キャリア教育推進特区」、大阪市「ビジネス人材育成特区」、岡山県御津町「御津町教育特区」の3件のみが認定されている。
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kouzou2/kouhyou/031024/031024nintei.html>

域デビュー”のできるイベントを。動機は自分のしたいこと、そして得意分野を活かしてのプラン、それが社会にも貢献できることに確信を持っての発表であった。

コメンテータの先生からの講評では、事業プランとしては絞り込みや資金計画の甘さ、他の団体との差別化の不足などが指摘された。が、私は内容もさることながら、プレゼンテーションのパフォーマンスの大切さを感じた。最近、行政からの委託事業や補助事業を決定する際、プレゼンテーションによる公開審査で行うケースも多いと聞く。資金計画などの細かい数値のペーパー資料の準備は前提として、短時間の中で、何を、どう相手に訴えかけるか、を考えて進めることも大きなポイントであると思った。

NPO は、ただの「容れ物」である。まず、自分たちのやりたいことがあって、それに応じてそれに相応しい組織形態を選べばよいと言われる。内容によっては、株式会社であったり、協同組合であったり、NPO であったり、任意団体であったり。しかし、最近、資本主義の社会であっても、儲けだけを追求して環境や健康、社会貢献に配慮しない企業は評価されない。驚くことに“非営利の株式会社”なるものも登場してきているらしい。それぞれの組織の境界線も曖昧になってきているようである。近い将来、それらの区別がなくなる日がくるかもしれない。ヨーロッパなどでは、非営利組織をまとめてCSOとも表現するそうだ。CSOとは、“Civil Society Organization”の略である。公式な日本語訳は知らないが、“市民社会組織”とでも訳されるのであろうか。

さて、私が在籍している2年目コースは3月中旬に修了式を迎える。この2年間でいろいろなことを学んできたと思うが、それについては、コースを修了してから振り返ってみたい。それには、まず修了要件の論文を提出しなければ。

ECAP 後、その広がり

山田 昌子

「おはようございます。お元気でお過ごしでしょうか。(略)さて、私は、冬季休みを利用して教職員 5 名と関西文化探訪で何日間関西に行きます。奈良、京都、大阪、神戸などを見て回るつもりです。2月2日午後には神戸に寄るつもりですので、ご都合は良ければお会いできればと思っています。(略)」

1月末、ソウルの李 龍宰(イーヨンデ)さんから、ECAP Korean 2003 の実行委員の藤澤さんのところに e-メールが届いた。イー先生には ECAP Korean 2003 ではお目にかからなかったが、協力者としてお世話になった。下見では ECAP Korean 2003 の実行委員の先生方とミーティングにも加わってもらっている。実行委員の塚本さんから「とってもいい方でしたよ」と伺ったことがある。

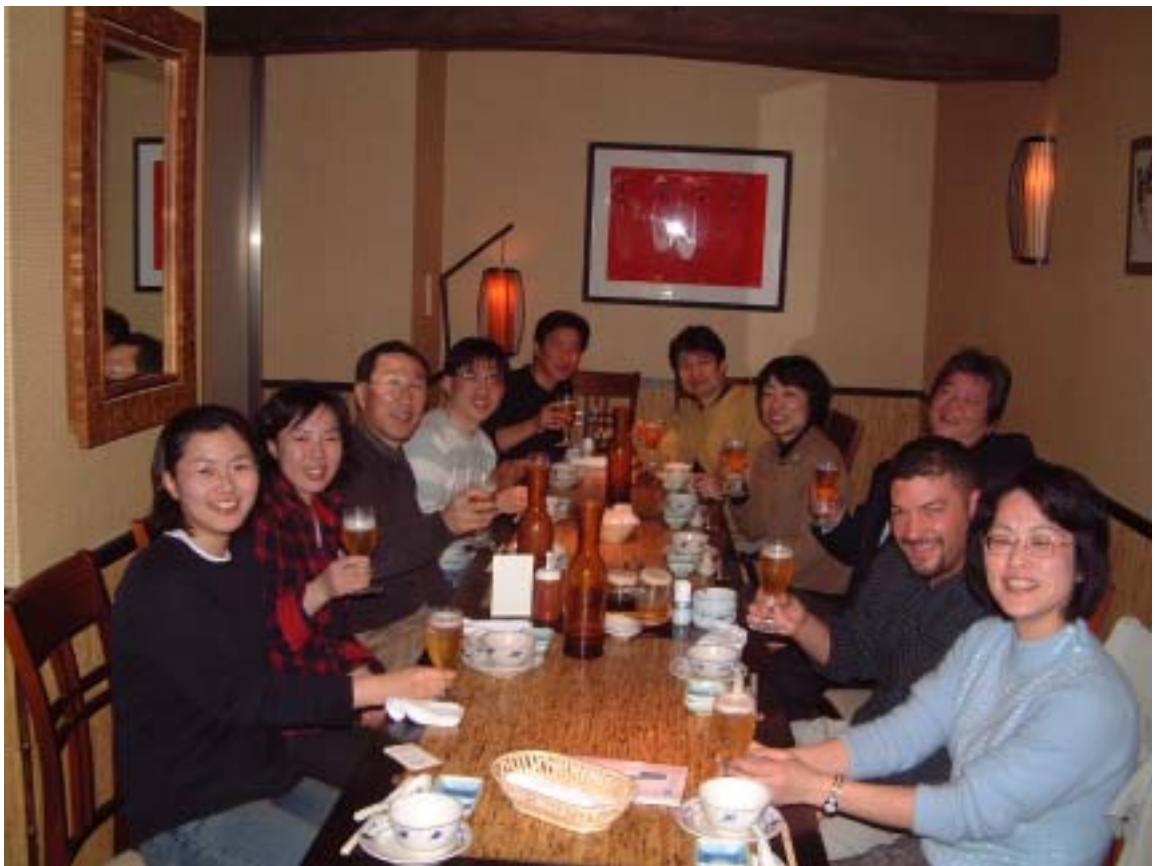
実は、イー先生は韓国から日本に派遣され、数年前に帰国された。名古屋で3年、京都で5年勤務され、京都は京都韓国学校で教鞭をとっておられたそう。そのため日本語が堪能。私の勤務校が国際理解教育でお世話になっている城陽市の国際交流員に ECAP Korea 2003 成功のためご協力をお願いしたところ、京都韓国学校の先生の奥さんを紹介してくださった。そして彼女を通じてイー先生を紹介していただいた。が私は今までお目にかかったことはなかった。

2月2日(月)夜、私たち(井川さん、辻さん、藤澤さん、中川さん、ランスさんと私)は、大阪駅近くのベトナム料理レストランでイー先生、そして同僚の先生方4名と食事会をした。イー先生はソウルの公立高校の地理の先生、生徒指導部長だそう。同僚の生徒指導部の若い先生方に日本での滞在経験を話すことが多く、それに感化された同僚たちには是非日本に連れて行ってほしいとせがまれ、今回の来日となったそう。1月31日(土)に来日、奈良、京都、大阪、神戸を観光し、2月3日(火)には帰国される予定だという。冬休みとはいえ保護者から補習の希望が多く、長い休みはなかなかとれないらしい。

イー先生は日本語が堪能だが、他の先生方は専ら韓国語。イー先生の通訳を頼りに、

英語、韓国語、日本語が乱れ飛ぶ夕食会となった。隣りで、大学時代韓国語を専攻した辻さんが思い出しながら韓国語のフレーズを使われるが、私の知っている韓国語は数少ない。だから「マシッソヨ(美味しい)」の連発になってしまう。言葉でうまく表現できないところは笑顔と愛嬌で勝負！私の前に座っているキム先生は2歳の息子の写真を愛おしそうに取り出し、見せてくれた。その隣りの独身のキム先生はカソリック教徒。最近の韓国映画やドラマに出てくるような爽やかな男性だ。2人共終始笑顔でなごやかだった。隣りのテーブルでは20歳代の女性の先生2人と藤澤さん、中川さん、ランスさんの笑い声が響く。

食事会の後、京都の知り合いのところに宿泊しているイー先生たちとJRで帰宅の途についた。電車の中でイー先生の隣りに座り話をしたが、互いに、その日初めて会ったとは思えなかった。私は、ECAP Korea 2003以降、韓国の先生方と話をする度に、韓国が近くて遠い国ではなく、兄弟のような国だと実感しているが、一層それを感じる夕べだった。今夏 ECAP Korea 2004 で、再会できることを楽しみにしている。



編集後記

先日、中学2年生の英語の授業をコンピューター室で行った。教科書のトピックでもあった「インターネット」を実際に体験させよう、という試みだった。生徒たちには「日本一、世界一を探そう！」という課題を与えた。(英語の授業では、比較級・最上級を習ったばかりだ。) 彼らは一体どれほどコンピューターを使えるのか、ということが不安であったが、ほとんどの生徒はコンピューターに触ったことがあるようだった。聞くところによると、自分のホームページを開設した生徒もいるようだ。検索サイトを開くところまでは、一つずつ説明しながら進めていったが、その後は自分たちで調べたいことを検索させた。「世界で一番大きい犬」「世界で一番高いビル」「世界で一番大きいサッカー場」など、調べたことをもとにレポートを書く。「インターネット」を使うのは初めての生徒もいたが、一時間の授業でほとんどの生徒が課題を達成することができた。これには驚いた。コンピューターを使うことは、彼らにとっては、そんなに難しいことではないようだ。ただし、ローマ字がわからないので、キーワード入力難しい生徒もいたが……。一時間はあっという間に過ぎ、終わりの指示をすると、「え～、もっとやりたい。」「またコンピューターできる？」という声。

実は、私自身、コンピューター室で授業を行うのは初めて。情報の授業を担当している先生にお願いして、横についてもらいながらの一時間だった。これまでは、何かトラブルが発生したら大変だからと、不安が先に立ってなかなかできなかった。しかし、案ずるより産むが安し。生徒たちの嬉々とした様子を見て、私まで嬉しくなった。今度はどんなふうに授業でコンピューターを使おうか、いろいろと考えがふくらむ。(田辺恵美)